

「トーゴーの日シンポジウム」の 企画・運営を行いました。

バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)は、日本のライフサイエンス分野のデータベース(DB)を統合することを目的に、昨年4月に発足しました。NBDCは、4省(文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省)所管の機関が独自に進めていたDB統合化を、オールジャパンで促進するための活動をしています。統合DBのあり方や統合に向けた基盤技術開発成果を共有する「トーゴーの日シンポジウム」もその1つです。

「トーゴーの日シンポジウム」の開催日は、毎年10月5日に設定しています。10月5日、つまり「トーゴー」の日に、DBの「統合」について考え、議論を深める場にしようというのが、そのねらいです。

2010年の第1回「トーゴーの日シンポジウム」は、文部科学省所管機関の主催イベントとしてほかの3省の所管機関も加わり、4省共同のイベントとして行いました。NBDCが発足した11年からはJSTが主催、4省所管機関の共催となり、NBDCが中心となってシンポジウムの企画運営を行っています。

ひと口にライフサイエンス分野のDBといっても、扱うデータによって特徴があり、ユーザーである研究者の興味も異なります。それ以外にも、例えばヒトゲノムデータには個人が特定され



バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)
研究員

高祖歩美 (31) こうそ・あゆみ

●業務の内容

ライフサイエンス分野DB統合に関するシンポジウムや展示会、統合DB講習会等のイベント企画・運営のほか、NBDC広報サイト運営など。JST入社前、情報・システム研究機構でも「トーゴーの日シンポジウム」を担当していた。

●Background

東京大学教養学部生命・認知科学科卒業。首都大学東京大学院人文科学研究科を経て、情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)に3年間勤務後、JSTへ。現在2年目。博士(言語学)。

るリスクに配慮する必要があるなど、DBを提供する側にもそれぞれ特有の事情があります。さまざまな種類のDBを使う側と提供する側、そしてDB統合の実務担当者などの視点を織り交ぜ、ライフサイエンス分野のDB統合の“カタチ”を探ることができるよう、シンポジウムの企画案を作成しました。

「トーゴーの日シンポジウム」の場合、シンポジウム当日の運営はもちろん、告知ポスターや要旨集、Webサイトの作成、さらには動画共有サービスUS TREAMを使った会場からの生中継もほとんど自分たちで実施しました。シンポジウム終了後には、撮影した動画の編集、発表に使われたスライドやポスターデータの収集整理、それらを公開する作業も担当しました。これらの動画やスライドは、ホームページ(<http://events.biosciencedbc.jp/sympo/togo2011/>)でご覧いただけます。

このほかに、展示会や統合DBの講習会も実施し、昨年は、バイオ関連としては国内最大級の集まりである日本分子生物学会年会への合同出展も始めました。これは、個別に出展していたライフサイエンス分野のDB関連のブースを1つのコーナーにまとめた特別企画です。今年も10月5日に「トーゴーの日シンポジウム」を開催します。日本分子生物学会年会への出展も引き続き予定しています。



左)センター内のミーティング。中)「トーゴーの日シンポジウム2011」には、大学や研究機関、民間企業の研究者など、全国から230名が参加した。右)日本分子生物学会年会でのライフサイエンス分野DB合同展示ブース。来場者へのPRだけでなく、出展者同士の交流にも役立った。

TEXT:Office彩蔵